

令和3（2021）年度北海道釧路養護学校  
第2回運営協議会：2021.11.8

## 特別支援学校の 寄宿舎の機能と役割

北海道教育大学釧路校  
小野川文子

### 事例より

▶Uさんのこと

▶Mさんのこと

### 寄宿舎教育の魅力とは？

- ・「食べる」「寝る」「出す」も含め、障害のある子どもの場合は、障害ゆえの発達の困難がある。
- ・さらに、養育困難や家庭事情があると、「あたりまえの生活」も保障されず、心身の発達に重大な影響を与える。
- ・寄宿舎には、子どもの発達の土台である「あたりまえの生活」と「仲間」がある
- ・子どもは仲間の中で育つ
- ・寄宿舎指導員が存在



### 寄宿舎の今日的役割

寄宿舎の独自の役割・価値

⇒発達支援と生活支援双方の役割がある

#### ◆生活上の困難

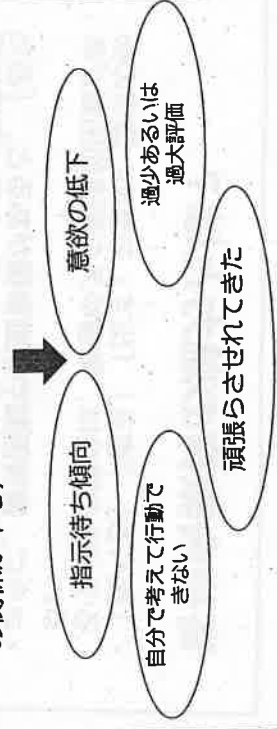
- ・生活の質、保護者の就労・健康等の問題
- ・孤立した子育て

#### ◆発達の困難

- ・障がいゆえに特別な教育的支援や配慮が必要
- ・特に、「自立」の課題：親子関係
- ・人との関わりの困難から

## 障害のある子どもの「生活」はどうなっているか？

- ・基本的生活動作に支援が必要→受け身な生活
- ・経験が少ない（ほとんど家の中で単調な生活）
- ・仲間（同年代）と関わる機会が少ない（大人との関係が中心）



## 入舎している高校生の語り

- ・「話したい」といった場面緘黙の子
- ・「つまらない」という感情に気づいた
- ・「自分で考えて行動できるようになった」



- ・「寄宿舍生活を通して、自らの要求・願いに気づく
- ・「こうしたい」思いが主体的行動へ

## 学部でつけた力が生活の中で発揮されること＝生きる力

- ・「学校ではできるけど、家に帰ればできない」
- ・「親が全部やってしまう」
- ・「どうしても指示待ちになってしまう」



- ・子どもが、仲間の中で、主体的な生活を送ること
- ・障害のある子どもにとっては、そういった場を意図的に用意していく必要がある。
- ・学部と寄宿舍が連携することができ寄宿舍併設特別支援学校の価値・魅力はここにある

## 寄宿舍生活の中で大切にしたいこと

—子どもは「生活」「仲間」の中で育つ—

＜寄宿舍生活の利点は・・・＞  
日常生活がある  
仲間との生活  
親元から離れた生活  
寝泊まりのある生活  
支えてくれる寄宿舍指導員がいる



- ・自分で自分の生活をつくる（主体的生活）
- ・自分で考えて行動できる、自ら進んで行動できる
- ・個別指導だけでなく、仲間との関りの中で育ちを促す
- ・失敗も含めた経験ができる（困ったときにHelpが言える）

## 寄宿舍併設特別支援学校に求めるもの

- ・寄宿舍併設特別支援学校の魅力を打ち出していくこと
- ・子どもや保護者のニーズに応えた寄宿舍教育実践
- ・学部と寄宿舍の連携
- ・寄宿舍指導員の専門性を高めること

## おわりに

- ・子どもたちの「こうしたい」要求・願いが生まれる生活を！
- ・仲間とぶつかり、繋がる生活を！
- ・コロナ禍では難しいかもしれないが…「これならできる」という発想を！